



事業の目的

九州自然歩道は、1980年に全線開通した、日本のナショナル・ロングトレイルです。全長3,000kmのトレイルは、自然や歴史、文化を色濃く残す地域を巡っています。今回の事業では、その中でも長崎県に位置する島原半島のコース、約60kmの活用に向けて、歩道の全線調査及びトークイベントの開催を行いました。

環境省は、「国立公園満喫プロジェクト」により、国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化し、インバウンド誘致を目指しています。ロングトレイルは、世界的にも広がりつつあり、近年話題のアドベンチャーツアーとも親和性が高く、これからのアウトドア文化として期待が寄せられています。



事業① 島原半島の九州自然歩道調査報告

口之津港から温泉鉄道浜駅跡までの全長60kmの歩道調査



〔調査目的〕

歩道の現状把握のための他、歩く利用者目線に立った情報収集のため、現地調査を実施。

〔調査内容〕

歩道の状態、迂回路の有無、周辺施設、道標、地点間距離、GPSログなど、歩く際に必要な情報の収集。調査区間については口之津から温泉鉄道浜駅までの約60kmに設定しました。

〔調査員〕

- ・「(一社)九州自然歩道フォーラム」
福島優氏
- ・宮崎で調査実績のある「宮崎ハイキングクラブ」
高代勇人氏
- ・雲仙に精通するジオガイド
「(一財)自然公園財団雲仙支部」大町由紀氏

〔スケジュール〕

1日の行程の距離については、実際の歩く人の平均距離を参考に作成。調査時は、雨天などに見舞われ、予定を少し変更し、以下の表で示す工程で調査しました。

※通行止め箇所

- ・雲仙地獄～矢岳登山口
路面地割れのため
- ・鬼人谷
路面崩壊のため

日程	起点	終点	距離
2月19日 (月)	口之津港	論所原エコ・パーク	21km
2月20日 (火)	論所原エコ・パーク	仁田峠	13.5km
2月21日 (水)	田代原トレイルセンター	温泉鉄道浜駅跡	15.3km
2月22日 (木)	仁田峠	田代原トレイルセンター	9.7km

4日間の実踏調査レポート

02

〔1日目・口之津港～論所原エコパーク〕

調査の始まりは、口之津港。熊本セクションの鬼池港からフェリーでつながり、長崎セクションの南の起点(北は佐賀県境の栗ノ木峠)。2020年に口之津港ターミナルが新築され、300mほど移動したため、九州自然歩道も延長が必要と思われます。港からすぐに細い道へ入り、国道389号線に沿って通る車道を進みます。道標は整備されており、しっかりと確認しながら歩けば迷うことはなさそう。諏訪の池近くの県道30号線合流交差点は複数の道があり分かりづらく、原山ドルメンへ向かう道に入ります。金比羅神社を通り、再び389号線に合流するところで、論所原エコ・パークに到着。ここはキャンプもできます。



分岐と道標を1箇所ずつ確認しながら、進む。

〔2日目・論所原エコ・パーク～仁田峠〕

論所原から1.2kmほどは国道沿いの歩道がない部分を歩きます。分岐から塔ノ坂地区へ入り、高岩山登山口から登山道へ。最初の階段等は少し荒れていますが、林道から二つ目の登山口以降は、きれいに整備されており歩きやすいです。山頂からの展望はバグンで、天草諸島が見渡せ、少し進むと普賢岳山系が見られます。宝原園地へ下る道もよく整備されています。登山口付近の鳥居が連なる道は印象的です。宝原園地から車道を小地獄温泉へ下ります。温泉館の裏手に山道があり、それを越えて雲仙温泉街の新湯に出ます。大叫喚等の地獄から矢岳登山口、池ノ原園地へ向かいますが、現在ここは通行止めのため、温泉街を通過して、迂回する必要があります。池ノ原園地から階段を上りあがると仁田峠に着きます。



一部道標は、古くて隠れているところもあるため注意が必要。

〔3日目・田代原トレイルセンター～温泉鉄道浜駅跡〕

雨天のため、予定を変更。九州自然歩道利用拠点施設である田代原トレイルセンター/田代原キャンプ場から、千々石断層を歩く登山道へ入ります。林の中の道で、アップダウンが少なく、歩きやすい道。パラ



絶景に出会うと感動もひとしお。

パラと雨に降られながらも森が守ってくれ、心地よく歩くことができます。鉄塔が見えてきてすぐに弘法原に到着。牧場の里あづまがあり、車道を200m行くと自販機があります。ここから登山道で橋神社へ下ります。一部倒木で通りづらいところがありますが、石垣が残っていたりと歴史を感じる道。車道に出て、1.7kmほどで橋神社に入ります。国道251号を横切り、商店街をまっすぐ進むと千々石海岸・恵比寿神社に到着です。ここから海岸沿いの道を歩いて、約5.2kmで、温泉鉄道浜駅跡の石標があります。海岸沿いの道は昔、諫早から小浜まで鉄道が走っていた道の一部で、今でも石標が残っています。

〔4日目・仁田峠～田代原トレイルセンター〕

雨が落ち着き、普賢岳調査。仁田峠からあざみ谷、紅葉茶屋と登り、鬼人谷へ。路面が一部崩壊しており、確認しながら登る(後日さらなる崩壊により現在通行止め)。国見岳分岐から吹越トンネルへ下る道へ入ります。ここが、急坂で階段を整備いただいているものの、段差の前後左右が浸食により崩れており、かなり歩きづらい状態。一部に"通行注意"と記載されている箇所もあります。下るときは慎重にいきます。吹越トンネル登山口に下山後、国道57号線を進み、九千部岳の登山口から登山道へ入ります。山頂分岐から田代原へ下りますが、一部水の浸食によりえぐれている箇所があります。田代原牧場沿いの木道を歩き、田代原トレイルセンターに到着します。



階段が整備されている一方、崩れてしまっている場所もある。

トークイベント

「島原半島を旅するロングトレイルの魅力」

03

トークイベントの開催

九州自然歩道の活用を考える上で海外ロングトレイルは目標の一つ。今回は、アメリカのジョン・ミュージア・トレイルを歩かれたハイカーで体験談をまとめた本を出版された原田優さんと、パシフィック・クレスト・トレイルとカミーノ・デ・サンティアゴを歩かれたKosukeさんにお越しいただきました。短い告知期間にも関わらず、27名ものご参加をいただき、ロングトレイルへの関心の高さが伺えました。

ハイカー原田優さん

「ロングトレイル」という文化を「日常」にする入り口を示してくれるような内容でした。どこを歩こうか、どんな準備をしようか、そんな躊躇から始まることは当然。どんな景色が見えるのか、まずは実際に入り口に立ってみて！と誰かの背中を押している力強さが、静かな語りの中に潜っていました。入り口から実際に踏み出し、原田さんが歩いた「ジョンミュージアトレイル (JMT)」の景色にあった、特別なことと感動が「歩く旅」という日常に落とし込まれる瞬間を、わたしも共有させていただきました。この時間で、ロングトレイルの入り口にたった人、入り口から踏み出す決意をした人もいたと思います。そして「歩く旅」を繰り返しながら日常を生活している人には、また「新しいその先の旅」が見つかったのではないのでしょうか。

ハイカーKosukeさん

「仕事を辞めてロングトレイルの世界に飛び込んだ若者」の記録は、「日記」でもあり「暴露話」でもありました。「パシフィッククレストトレイル (PCT)」を歩いてきた Kosuke 氏の



Kosukeさんから日本にはないPCTの風景の紹介

パネルディスカッション

お二人のトーク後、事前・会場からの質問を交えてパネルディスカッション。海外を歩かれた二人から見て「島原半島の可能性」を問うと「誇張しないこと」をあげられました。リアルな情報発信とともに歩く人が増えていけば自ずと増えていく地域とのこと。いつも思い出として残るのは「人」で、現地での出会い、優しくしてもらった経験などがトレイルの印象になる。ここでは自然とできているため、より地域の方の理解があれば、ハイカーも来たがります。他にも軽量化のコツや長期ならではの魅力や大変なことを話していただきました。



情報館別館のホールいっぱいになる来場者。



原田さんから歩き旅を始めたきっかけのお話

写真は、一見すると「美しい瞬間を切り取った作品」のように見えるのですが、彼が語る旅の記録の話が加わると、そこからは現地の空気や温度、そして気まずさを感じるほどの生々しさが、俄かに湧き上がってきました。「歩くこと (好きなこと)」=「楽しいこと」が成り立たなくなることへの葛藤とその先に見つけたものは、Kosuke 氏だけのものでは決してなく、「好きなことをやっていく」皆が共有する「人生が動く瞬間」なのだろうと思います。辛い気持ちで落ち込んだ昨日、誰かとの楽しい出合いではしゃぐ今日、そんなことを繰り返すのは、あなたもわたしもおなじだと「歩く旅」を通じて「絆」が見えた気がしました。



九州

アンケートの回答

トークイベント終了後、アンケートのご協力をお願いし、参加者27名中12名からご回答いただきました。

イベントを知ったきっかけとしては、「人づての紹介」が最も多く、ロングトレイルに関心のある方々の情報伝達力の高さが伺えます。またチラシも25%をしめ、広報期間1ヶ月弱の中で、適切にチラシを配架できました。



図2 参加したいと思ったきっかけ

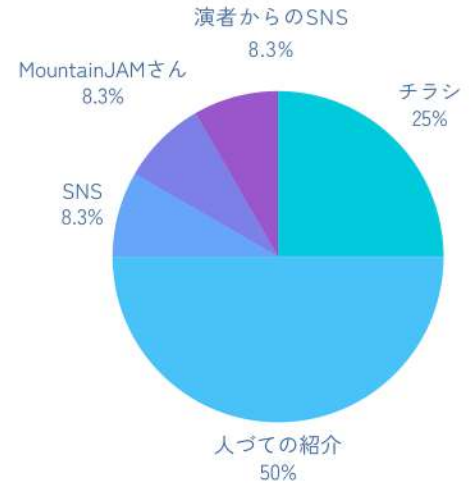


図1 知ったきっかけ

参加したいと思ったきっかけは、「島原半島が好き」の次に「九州自然歩道」「ロングトレイル」に興味がある方が多く、潜在的なニーズの高さが表れています。九州内ではロングトレイルをテーマとしたイベントはほとんど行われていないため、今後継続的に行うことで九州内でも先駆けて"島原半島はロングトレイルエリア"と認知してもらえる可能性が高いです。

トークの印象的などころのアンケート結果として、参加者はPCTなどのロングトレイルに関心があり、歩いた経験者の話に感銘を受けた様子でした。自然を楽しむ人との出会い・交流が、道の魅力であると感じた声もありました。海外のトレイルと日本の自然歩道の違いも認識し、九州自然歩道の魅力に興味を持ち、ゲストの方々の情熱に感化されていました。

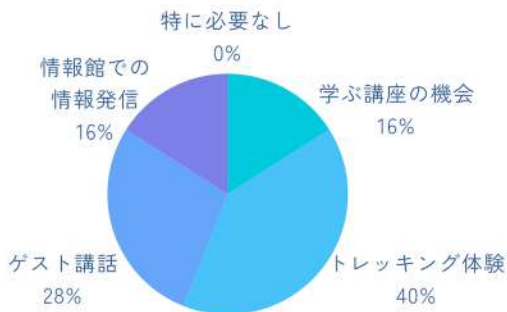


図3 九州自然歩道について、知ったり体験する機会
(複数回答可)

◀図3の「九州自然歩道について、知ったり体験する機会はあると良いですか?」の回答は、40%の方が、現地を歩くウォーキングやトレッキングイベントを開催してほしいとの声が多かったです。島原半島は、4日間あればゆっくり歩き通せるため、全4回の企画や4日間通して歩くロングトレイルツアーの構築もしやすいのが特徴です。

次にゲスト講話で、今回のようななかなか聞く機会のない世界の話、体験談は関心が高いのが伺えます。そして同率で、学ぶ機会と情報発信。こちらは、情報館及び自然保護官事務所の協力で常設展、講座開催が行えるため、今後の取り組みの一つとして、企画していきたいと思えます。

以上のアンケート結果から、全体的に九州自然歩道やロングトレイルの関心度の高さが伺えます。実際に歩きたい方が増えており、きっかけとして、ロングトレイルとはどういうものか知る機会を情報館展示や講座にてつくることで、島原半島を歩くハイカーが増えることが想定できます。今回のトークイベントに参加された方の中にも、当日九州自然歩道を歩いてきた方や本イベントをきっかけに歩き始めた方がいらっしゃいます。今後の島原半島を旅するロングトレイル文化の醸成の始まりです。

2024年度の目標

本事業を通して、島原半島の九州自然歩道の全体像の把握、そして潜在ニーズの掘り起こしをすることができました。九州の中でも島原半島は4日間でシートゥーサミットゥーシーが実現でき、各所のキャンプ場と連携することで歩きやすいコース設定となっています。2024年度は、今回の調査・ニーズ結果をふまえ、トレッキングやトークイベントの開催を企画しつつ、歩く方への情報提供及び歩道の継続的な情報収集・発信のために、有料でのマップ販売を行うことが望ましいと考えています。



制作：(一社)九州自然歩道フォーラム
MAIL：info@kntf.jp 担当：福島

協力：(一財)自然公園財団雲仙支部、環境省雲仙自然保護官事務所